

## 6月学校朝会・校長講話

ただ今、入間東部大会の表彰式を行いました。表彰された多くの皆さん、本当におめでとうございます。よく頑張りましたね。また残念ながら希望が叶わず表彰できなかった皆さん、最後まで全力を尽くしてくれましたね。大井西中生としてのプライドと誇りを持って試合に臨んでくれました。その姿をどの会場に行っても見るのができた私は幸せ者です。敗れた3年生はここで部活動を引退しますが、気持ちを切り替えて次の目標に向けて頑張ってください。

さて今回は人が生きていく上で大切なものの1つについてお話します。それは「信用」です。皆さんは自分が人から信用されていると思っていますか。信用を得るには特別なことは必要ありません。例えば約束を果たすとか自分の役割を果たすという当たり前なことを積み重ねることで信用は生まれてきます。そしてもう1つ、それは人に迷惑をかけないということです。人が嫌がることはしないで人が喜ぶことをするのです。するといつの間にか人から信用という宝物をもらえるのです。皆さんは約束や役割を果たすことをしないで先生や親から叱られたことはありますか。それは人からの信用を失うことをしてはいけないという愛情からきている叱りなのです。叱られることと褒められることは基本的には一緒だと思っています。愛情があるから褒められることも叱られることもあるのです。一番悲しいことは褒められも叱られもせずに無視されることです。大人になってしまうとほとんど誰からも叱られることはありません。残酷なことですが、自分が気づかないうちに人からの信用を失っていく人も多いです。

ここで1つの例を出します。皆さんは日々先生から提出物を期限内に提出するように指示されていませんか。ではなぜ期限が決まっているのでしょうか。そんなことを考えたこともありませんか。それは先生にとってその期限までに集めねばならない理由があるからです。毎回期限どおりに提出しない人は、集める人の気持ちがわかりません。自分一人ぐらい遅れても大丈夫だと思うのですが、集める先生にとっては全員が提出しないと次の仕事に移れない事も多いのです。そして期限内ならその日の夕方でも大丈夫と考える人はいませんか。確かに期限内ですが、集める先生にとってはそれだけ次の仕事の準備期間が少なくなるのです。期限内という条件はクリアしてはいますが、ぎりぎりの提出は優しくない対応とも言えます。こうした例でも分かる様に提出物の期限は必ず守り、できれば1日でも早く提出できたらいいですね。その積み重ねが「信用」という宝物を生むのです。信用を生むには特別なことは何もありません。ただ当たり前の事を当たり前にやり続けることと相手を思う温かな心を添えることなのです。だから提出物は期限内に提出しなければならないのです。

今、大井西中学校では無言清掃やS級の挨拶がいたるところで見られます。今日の学校朝会も予定時刻の 5 分前には全員がこの体育館に整列していました。こうした当たり前のことが信用を生むことに繋がるのです。信用を得るには時間がかかりますが、信用を失うには時間はかかりません。多くの人から信用される人生は幸せで溢れています。そんな生き方ができる西中生になってほしいと願っています。

令和元年 6 月 25 日 (火)

山 崎 祐 一